

治山施設点検調査委託業務仕様書

令和8年7月改正

高 知 県

治山施設点検調査委託業務仕様書

1. 適用範囲

- (1) この仕様書は、治山施設点検調査委託業務に適用する。
- (2) 契約図書及び特記仕様書に記載された事項については、この仕様書を優先するものとする。

2. (調査の目的)

治山施設の適正な維持管理を行うため、県内の治山施設、落石対策施行地の点検調査を行い治山施設の適正な管理に資することを目的とする。

3. (管理技術者)

- (1) 受注者は、治山施設点検調査委託業務における管理技術者を定め、契約書及び仕様書等に基づき治山施設点検調査委託業務に関する一切の事項を処理するものとする。
- (2) 管理技術者は、高知県が発注する治山工事の主任技術者を経験し治山事業に精通している者。または、設計業務等技術者による技師(C)の規準に適合するものとする。

4. (業務内容)

設計図書に示された治山施設、落石対策施行地について、現地調査を行い被災がない場合については、下流から及び上流からの写真を撮影し施設現況写真を別紙第2号様式写真台紙に添付する。また、被災しているものについては、上記に加え被災状況写真（被災規模が分かるもの）及び保全対象写真を貼付する。

5. (治山施設点検調査委託計画書)

- (1) 受注者は、契約後すみやかに治山施設点検調査委託計画書（別紙第4号様式他）を作成し調査職員に提出しなければならない。
- (2) 業務計画書には、契約図書に基づき下記事項を記載するものとする。ただし、調査職員の承諾を得て記載内容の一部を省略することができる。

ア. 業務概要	イ. 実施方針
ウ. 業務工程表	エ. 打合せ計画
オ. 成果品の内容、部数	
- (3) 受注者は、業務計画書の内容を変更する場合は、理由を明確にしたうえで、その都度調査職員に変更業務計画書を提出しなければならない。
- (4) 調査職員が補足を求めた事項については、受注者はさらに詳細な業務計画に係る資料を提出しなければならない。

6. (打合せ協議)

打合せ協議については、着手前、中間（進捗が30%～80%）、完了前に行う。

7. (調査結果の提出)

(1) 調査様式の提出

現地調査を行い別紙治山施設現地点検チェックシートにより、施設の現況を把握し、その結果を別紙第1号様式個別施設計画整理表に集約、記載する。

第1号様式を履行期間内に電子データ(CDまたはDVD等の記録媒体)で提出する。

(2) 施設位置図の提出

1/25, 000地形図を使用し、調査位置が分かるものに整理番号を付け電子データ(CDまたはDVD等の記録媒体)で提出する。

(3) 詳細平面図の提出

森林基本図1/5, 000程度の図面(施設配備図等)に対象施設が分かるものに整理番号を付け電子データ(CDまたはDVD等の記録媒体)で提出する。

(4) 現況及び被災状況写真の提出

写真は、デジタルカメラで全箇所施設の写真を撮影し画素数は100万画素以上(施設の現況が分かる程度)とする。撮影した写真については日付が分かるように管理のうち、デジタルカメラで撮影したものを別紙第2号様式の写真台紙に貼り付け電子データ(CDまたはDVD等の記録媒体)で提出する。

なお、作成された全ての記録媒体に対して最新のウイルス定義ファイルを使用し、ウイルスチェックを行うこととする。

8. (受注者の義務)

受注者は、契約の履行に当たって当該調査委託業務の意図及び目的を十分に理解したうえで、調査結果のとりまとめを行い提出する。

9. (安全管理)

現地調査を行うに当たり、安全には十分注意し予想される危険に対し十分対策を講じること。

10. (現地調査)

現地調査に当たり、発注者が発行する別紙第3号様式の委託証明書を必ず携帯すると共に身分の確認を求められた場合は委託証明書を提示のうえ、調査の内容を説明し理解を求めること。理解が得られず退去を求められた場合は、速やかに退去し発注者に状況等の説明を行うこと。

11. (その他事項)

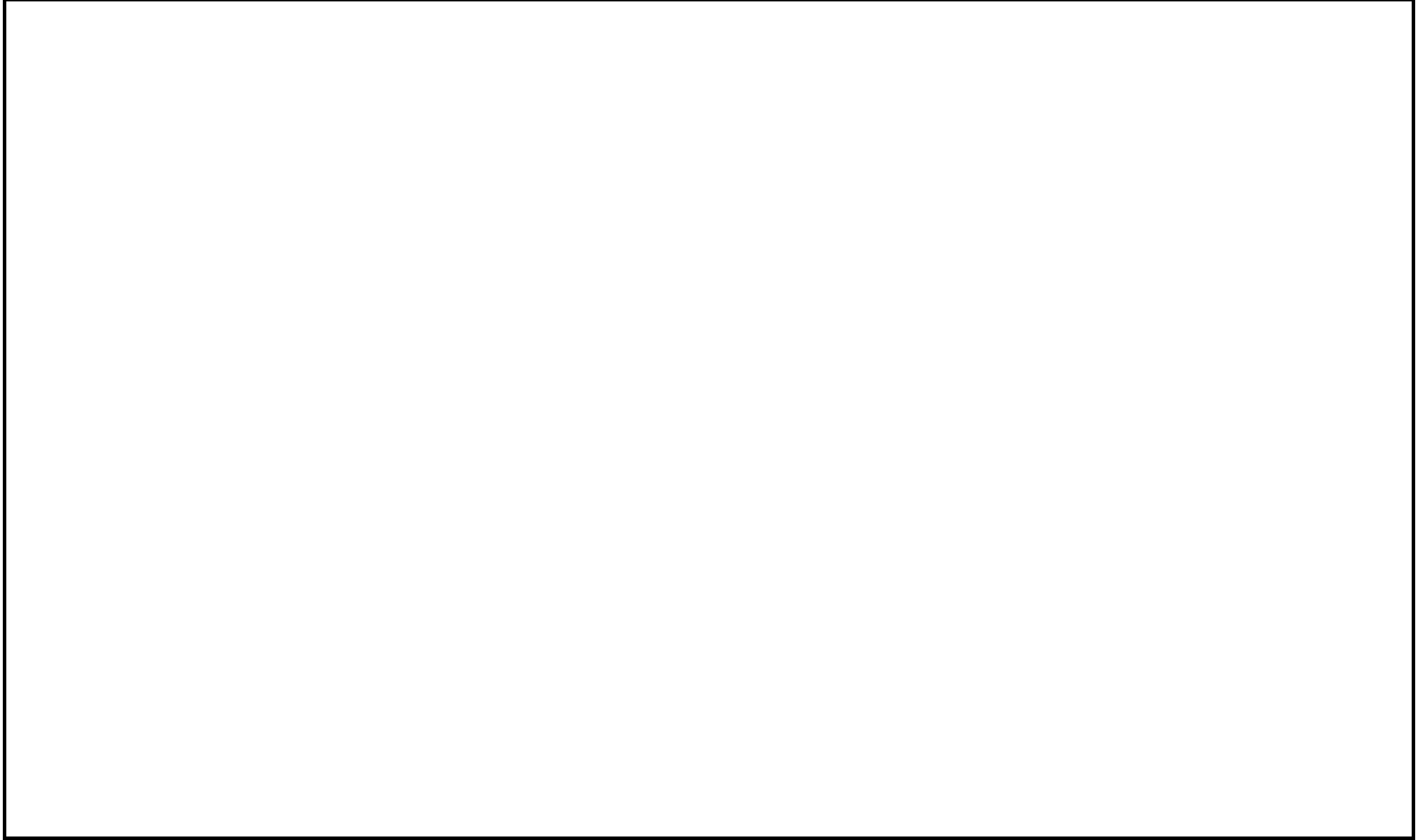
- (1) 仕様書に明記していない事項については、監督職員と協議し決定する。

写真台紙

委託番号:

個別施設番号:

撮影日: 年 月 日



委託証明書

1. 発注者：○ ○ 林業事務所（○○課）
2. 受注者：○ ○ ○ ○ 役職及び氏名：○
3. 履行期間： ○○年○○月○○日～ ○○年○○月○○日

※ 上記のとおり ○○年度治山施設点検調査委託業務を委託したことを証します。

年 月 日

○○林業事務所長 印

諸注意

1. 委託証明書の返却については、委託業務終了後速やかに発注者へ返納すること。
2. 現地調査にあたり、自動車等の駐車及び調査対象地の出入りについては迷惑にならないよう十分注意すること。
3. 現地調査にあたり、発注者が発行する委託証明書を必ず携帯すると共に身分の確認を求められた場合は委託証明書を提示のうえ、調査の内容を説明し理解を求めること。
理解が得られず退去を求められた場合は、速やかに退去し発注者に状況等の説明を行うこと。
4. 交通規則を厳守し、安全運転に努めること。
5. 現地調査を行うにあたり、安全には十分注意し予想される危険に対し十分対策を講じること。

年 月 日

高 知 県 知 事

様

受 注 者 住 所
氏 名

印

業務計画書の提出について

下記の業務について、別紙のとおり業務計画書を提出します。

記

委 託 業 務 名	
業 務 番 号	第 号
委 託 場 所	
履 行 期 限	自 年 月 日 至 年 月 日
業 務 委 託 料	¥
契 約 年 月 日	年 月 日

注) 別紙業務工程表を添付すること。

主な施設の把握単位について

工種名2	把握単位	施設諸元に係る把握事項		留意事項	備考
		施設の規模等	その他		
治山ダム工(谷止工、床固工)	1基ごと	高さ、長さ、天端厚(m)	構造(コンクリート製、鋼製等)、透過型・非透過型	副ダム、側壁、水叩き等一体的な構造物を含む	
護岸工	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)	構造(コンクリート製、鋼製等)	(注1)	
流路工	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)	構造(コンクリート製、鋼製等)	(注1)	
水制工	一体的であると認められる一連の施設ごと	延長(m)	構造(コンクリート製、鋼製等)	(注2)	
山腹基礎工					
土留工	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)	構造(コンクリート製、鋼製等)	(注1)(注3)	
水路工	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)		(注2)	
法枠工	一体と認められる連続した施設ごと	面積(m2)		(注1)(注3)	
アンカー工	一体的であると認められる一連の施設ごと	本数(本)		(注4)	
補強土工(ロープネット・ロックボルト併用工法等)	一体と認められる連続した施設ごと	面積(m2)		(注1)	
モルタル吹付工	一体と認められる連続した施設ごと	面積(m2)		(注1)	
落石防止工					
落石予防工(固定工、根固工)	一体的であると認められる一連の施設ごと	箇所数(箇所)		(注2)	
落石防護工(防護壁工、防護土留工、防護柵工等)	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)		(注1)	
防潮工					
防潮堤	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)		(注1)	
防潮護岸	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)		(注1)	
消波工	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)		(注1)	
消波堤	一体と認められる連続した施設ごと	延長(m)		(注1)	
突堤	一体的であると認められる一連の施設ごと	延長(m)		(注2)	
離岸堤	一体的であると認められる一連の施設ごと	延長(m)		(注2)	
なだれ防止施設					
予防施設(雪庇予防柵工、予防柵工、吊柵工、予防杭工、吊枠工)	一体的であると認められる一連の施設ごと	基数(基)		(注2)	
防護施設(擁壁工、柵工、杭工)	一体的であると認められる一連の施設ごと	基数(基)		(注2)	
ボーリング排水工	一体的であると認められる一連の施設ごと	本数(本)		(注2)	
集水井工	1基ごと	深さ(m)	構造(コンクリート製、鋼製等)	(注2)(注5)	
排水トンネル工	1本ごと	延長(m)	構造(コンクリート製、鋼製等)	(注5)(注6)	
杭工、シャフト工	一体的であると認められる一連の施設ごと	本数(本)		(注7)	(注1)
山地災害情報システム	一連のシステムごと	システム数(式)		一問一答(治山事業の解説(発行:日本治山治水協会))P140	
(備考)					
落石予防工(被覆工)		面積(m2)			法枠工、吹付工で把握
地すべり防止工としてのアンカー工、治山ダム工、土留工					山腹基礎工等で把握
保安林管理道				林道の個別施設計画に準ずる	
<一般的には長寿命化対策の対象外と考えられる施設>					
山腹基礎工(法切工、埋設工、暗きよ工、張工)				他施設の点検の一環として行われる「周辺の森林状態の把握」で状態を把握	(注8)
山腹緑化工(柵工、筋工、伏工、軽量法枠工、植生工等)				他施設の点検の一環として行われる「周辺の森林状態の把握」で状態を把握	(注8)
落石予防工(斜面切取工、転石整理工)				他施設の点検の一環として行われる「周辺の森林状態の把握」で状態を把握	(注8)
作業施設(共生保安林整備事業)				一問一答P175、176	(注8)
その他					(注8)

注1: 構造、施工年度、連続性等から一体的施設として管理することが適当と認められる単位。なお、整備年が大きく異なる(概ね5年以上)場合や構造が異なる場合、他の施設や地形等により分断されている場合には、別個の施設として扱う。

注2: 構造、施工年度、配置の連続性等から一体的施設として管理することが適当と認められる単位。なお、整備年が大きく異なる(概ね5年以上)場合や構造が異なる場合には、別個の施設として扱う。

注3: アンカーが設置されている場合、当該アンカーについてはアンカー工として把握する。その場合、当該施設の管理番号を関連施設の枝番とし、どの法枠工等に設置されたものか区別できるようにする。

注4: 一体的とは、同一構造のアンカーが一連のものとして配置されているものを指す。なお、整備年度が大きく異なるもの(概ね5年以上)は別個の施設として取り扱う。特に、旧タイプアンカー(1988年制定の地盤工学会基準以降の学会基準に準拠しない構造のアンカー)とそれ以外のアンカーを一連の施設として取り扱わないこと。

注5: 施設内の集水井等はボーリング排水工として把握する。その場合、当該施設の管理番号を関連施設の枝番とし、どの集水井等に設置されたものか区別できるようにする。

注6: 内部で枝分かれしている同一トンネルとして扱う(掘削部は断面等の構造が異なる場合もあるが、同一施設として扱って構わない)。ただし、覆工材料等の構造が異なるため維持管理上の取扱が大きく異なる場合は、別個の施設として取り扱う。その場合、整理票において隣接する行に枝番として整理するなど、管理に支障のないよう留意する。

注7: 杭工、シャフト工については、施設の状態を直接把握することは困難であるものの、周辺の変状(クラックの発生等)により、機能を適切に発揮しているか間接的に把握し、必要に応じて対策(更新)を実施することが可能であることから、対象施設として例示している。

注8: メンテナンスサイクル構築の効果が低い、他施設の点検の一環として行われる周辺の森林状態の把握で状態の把握が可能と考えられるなど。ただし、管理者の判断により対象施設として位置づけることは否定しない。

参考2

工種名1	工種名2	構造	単位	健全度評価	分類	優先度	適用した事業
溪間工	治山ダム工(谷止工、床固工)	コンクリート製	延長(m)	健全度Ⅰ	点検・診断	高	農山漁村地域整備交付金(予防治山)
	護岸工	鋼製	面積(m ²)	健全度Ⅱ	補修	中	農山漁村地域整備交付金(地域防災対策総合治山)
	流路工	コンクリートブロック積	本数(本)	健全度Ⅲ	機能強化	低	農山漁村地域整備交付金(林地荒廃防止)
	水制工	石積	箇所数(箇所)	健全度Ⅳ	経過観察		農山漁村地域整備交付金(山地災害総合減災対策治山)
山腹工	土留工	木製	基数(基)		更新		農山漁村地域整備交付金(治山施設機能強化)
	水路工	その他	深さ(m)				農山漁村地域整備交付金(保安林管理道整備)
	法枠工		システム数(式)				復旧治山
	補強土工(ロープネット・ロックボルト併用工法等)						防災林造成
	モルタル吹付工						水源森林再生対策
	落石予防工(固定工、根固工)						奥地保安林保全緊急対策
	落石防護工(防護壁工、防護土留工、防護柵工等)						水源の里保全緊急整備
海岸防災林	防潮堤						地すべり防止
	防潮護岸						保安林整備
	消波工						保安林改良
	消波堤						保育
	突堤						地方単独
	離岸堤						
なだれ防止林	なだれ予防施設(雪庇予防柵工、予防柵工、吊柵工、予防杭工、吊枠工)						
	なだれ防護施設(擁壁工、柵工、杭工)						
地すべり防止工	アンカー工						
	ボーリング排水工						
	集水井工						
	排水トンネル工						
	杭工、シャフト工						
その他	山地災害情報システム						

※分類欄の「経過観察」は、日常業務の一環として目視等により概況を把握するなど、点検・診断より軽微な内容ものを指す

参考3

治山施設現地地点検チェックシート

溪間工（谷止工、護岸工等）

										点検年月日							
調査者所属										点検者氏名							
治山台帳番号										工事番号							
施工年度										事業名							
施工箇所																	
緯度				度		分		秒	経度				度		分		秒
種別										諸元							
工種・部位	点検項目	異常		異常の概略*	部位別健全度	工種・部位	点検項目	異常		異常の概略*	部位別健全度						
		あり	なし					あり	なし								
谷止工 床固工 帯工	本体	天端摩耗（コンクリート）				護岸工 流路工	変形										
		堤体損傷					傾倒										
		石積み欠落（石積）					損傷（鋼製・木製のみ）										
		ひび割れ（コンクリート）					ひび割れ（クラック）										
		クラックによる漏水（コンクリート）					目地の開き （コンクリート、ブロック積）										
		内部材変化による漏水（石）					漏水										
		傾倒					ブロック欠落 （ブロック積）										
		埋没					接続部開き・漏水										
		変形（鋼製・木製のみ）					部材の腐食・腐朽 （鋼製・木製のみ）										
		部材の腐食・腐朽 （鋼製・木製のみ）					部材の破断・ボルト欠損、										
	部材の破断・ボルト欠損、				周辺	基礎部洗掘											
	部材の脱落 （鋼製透過型のみ）					端部洗掘											
	底版コンクリートの摩耗					背面土砂の沈下、流出											
	流木等による閉塞 （鋼製透過型のみ）				その他付帯施設等	安全施設の異常											
袖部	損傷				周辺の森林状況等	溪岸または溪床侵食の発生や拡大											
	石積み欠落（石積）					新規の山腹崩壊や地すべり、落石発生や既往											
	ひび割れ（コンクリート）					溪床の新規土石流堆積物や巨礫、流木の堆積											
	変形（鋼製・木製のみ）					土砂等の堆積状況 （堆砂敷への植生侵入状況）	満砂	未満砂									
	部材の腐食・腐朽 （鋼製・木製のみ）																
施設周辺	部材の破断・ボルト欠損、																
	基礎部洗掘																
袖部洗掘																	
・保全対象の状況																	
・施設群としての評価																	
現地点検者 施設全体の健全度判定	○健全度Ⅰ	異常なし又は軽微な損傷・劣化									概要	(異常の原因、修繕予定時期、修繕方法、概算工事費、判定の理由など)					
	○健全度Ⅱ	施設の機能は維持されているため経過観察とする															
	○健全度Ⅲ	機能低下が生じる可能性があり、早期に対策が必要															
	○健全度Ⅳ	安定性や強度が低下しており、緊急に対策が必要															

※異常の概略は、異常箇所の位置、規模、追加調査の結果等を記載する。

異常の規模が計測可能であれば、計測値を記入し、次のように記載する。

計測値の記載例：本数（N=〇本）、延長（L=〇m）、幅（W=〇m）、深さ（D=〇m）、高さ（H=〇m）等

規模の記載単位は、1mを超える場合はm単位、1m未満の場合はcm単位、1cm未満の場合はmm単位とする。

治山施設現地点検チェックシート

山腹工（土留工、水路工、法枠工、吹付工、補強土工）

										点検年月日										
調査者所属										点検者氏名										
治山台帳番号										工事番号										
施工年度										事業名										
施工箇所																				
緯度			度		分		秒	経度			度		分		秒					
種別										諸元										
工種・部位		点検項目		異常あり	異常なし	異常の概略*		部位別健全度		工種・部位		点検項目		異常あり	異常なし	異常の概略*		部位別健全度		
土留工	本体	変形								法枠工	法枠自体が下方へ移動									
		傾倒									変形（はらみ出し、浮き等）									
		劣化・剥離									破断									
		ひび割れ（コンクリート）									ひび割れ									
		漏水									劣化・剥離									
		沈下								枠内		吹付材の流出								
		埋没								施設周辺・背面	湧水									
		部材の腐食・腐朽（鋼製・木製のみ）									空洞化									
		部材の破断・ボルト欠損、										変形（はらみ出し、座屈、段差等）								
	施設周辺	基礎部洗掘								吹付工	本体		ひび割れ							
端部洗掘								劣化・剥離												
湧水								施設周辺・背面	湧水											
									空洞化											
水路工	本体	変形								土工（ノンフレーム工法）	斜面内		斜面内の異常							
		破損									頭部		ロックボルトの緩み							
		ひび割れ（コンクリート）								ロックボルト、支圧板の浮き上がり										
		目地の開き（コンクリート）								保護キャップの緩み、損傷										
		接続部のズレ								ワイヤー		腐食								
		腐食（コルゲートリウム）								変形・断線、緩み等										
		漏水										森林の荒廃（下床植生衰退、土壌流出等）								
		土砂等の堆積										新規の山腹崩壊、落石発生や既往崩壊地の拡大								
	施設周辺	洗掘								周辺の森林状況等		倒木の発生								
保全対象の状況																				
現地点検者		○健全度Ⅰ 異常なし又は軽微な損傷・劣化								摘要		(異常の原因、修繕予定時期、修繕方法、概算工事費、判定の理由など)								
施設全体の健全度判定		○健全度Ⅱ 施設の機能は維持されているため経過観察とする																		
		○健全度Ⅲ 機能低下が生じる可能性があり、早期に対策が必要																		
		○健全度Ⅳ 安定性や強度が低下しており、緊急に対策が必要																		

*異常の概略は、異常箇所の位置、規模、追加調査の結果等を記載する。

異常の規模が計測可能であれば、計測値を記入し、次のように記載する。

計測値の記載例：本数（N=○本）、延長（L=○m）、幅（W=○m）、深さ（D=○m）、高さ（H=○m）等

規模の記載単位は、1mを超える場合はm単位、1m未満の場合はcm単位、1cm未満の場合はmm単位とする。

治山施設現地点検チェックシート

落石対策工（落石予防工、落石防護工）

										点検年月日					
調査者所属										点検者氏名					
治山台帳 番号										工事番号					
施工年度										事業名					
施工箇所															
緯度		度		分		秒		経度		度		分		秒	
種別							諸元								
工種	点検項目	異常		異常の概略*	部位別 健全度 (1~4)	工種	点検項目	異常		異常の概略*	部位別 健全度 (1~4)				
		あり	なし					あり	なし						
落石 予 防 工	基礎部	変形				基礎部	変形								
		傾倒					傾倒								
		劣化・剥離					劣化・剥離								
		ひび割れ					ひび割れ								
		沈下					沈下								
	金網 ・ ワイ	腐食				金網 ・ ワイ	腐食								
		変形・断線・緩み等					変形・断線・緩み等								
	支柱	腐食				支柱	腐食								
		変形・破損					変形・破損								
	アン カー	抜け・緩み				アン カー	抜け・緩み								
	緩衝材	腐朽				緩衝材	腐朽								
		損傷					損傷								
	施設 周辺 ・	基礎部洗掘				施設 周辺 ・	基礎部洗掘								
		背面の異常堆積					背面の異常堆積								
						周辺 の 森 林 状 況 等	森林の荒廃（下層植								
							生衰退、土壌流亡								
							新規の山腹崩壊、落								
							石発生や既往崩壊地								
							倒木の発生								
保全対象の状況															
現地点検者 施設全体の 健全度判定	○健全度Ⅰ	異常なし又は軽微な損傷・劣化				摘要	(異常の原因、修繕予定時期、修繕方法、概算工事費、判定の理由など)								
	○健全度Ⅱ	施設の機能は維持されているため経過観察とする													
	○健全度Ⅲ	機能低下が生じる可能性があり、早期に対策が必要													
	○健全度Ⅳ	安定性や強度が低下しており、緊急に対策が必要													

※異常の概略は、異常箇所の位置、規模、追加調査の結果等を記載する。

異常の規模が計測可能であれば、計測値を記入し、次のように記載する。

計測値の記載例：本数 (N=○本)、延長 (L=○m)、幅 (W=○m)、深さ (D=○m)、高さ (H=○m) 等

規模の記載単位は、1mを超える場合はm単位、1m未満の場合はcm単位、1cm未満の場合はmm単位とする。

治山施設現地点検チェックシート

地すべり防止工（ボーリング暗きょ工、集水井工、杭工、アンカー工等）

										点検年月日					
調査者所属										点検者氏名					
治山台帳番号										工事番号					
施工年度										事業名					
施工箇所															
緯度		度		分		秒		経度		度		分		秒	
種別								諸元							
工種・部位		点検項目	異常		異常の概略*	部位別健全度(1~4)	工種・部位		点検項目	異常		異常の概略*	部位別健全度(1~4)		
			あり	なし						あり	なし				
グ	本体	破損・変形					杭工	頭部	頭部突出						
		閉塞・目詰まり							施設周辺	地山の亀裂					
集水井工	井筒本体等	ライナープレートの破損・変形					アンカー工	頭部	頭部飛び出し						
		ライナープレートの腐食							頭部保護部の損傷						
		ひび割れ(クラック)(コンクリート)							防錆材の漏れ						
	集水管	破損・変形					受圧版	受圧版の変位・変形							
		閉塞・目詰まり						受圧版の劣化・腐食(アルミ製等)							
	排水管	呑口の閉塞(異常渾水)					周辺の森林状況等	受圧版のひび割れ							
		吐口の排水不良						地盤変状(クラックや小崩壊、段差、陥地すべり変動に伴う)							
	付帯施設	蓋の変状・腐食					周辺の森林状況等	立木の変状(傾倒や対象施設以外の構造物(道路、擁壁、排							
		防護柵の破損・変形						物(道路、擁壁、排							
	保全対象の状況														
現地点検者 施設全体の健全度判定	○健全度Ⅰ	異常なし又は軽微な損傷・劣化						概要	(異常の原因、修繕予定時期、修繕方法、概算工事費、判定の理由など)						
	○健全度Ⅱ	施設の機能は維持されているため経過観察とする													
	○健全度Ⅲ	機能低下が生じる可能性があり、早期に対策が必要													
	○健全度Ⅳ	安定性や強度が低下しており、緊急に対策が必要													

*異常の概略は、異常箇所の位置、規模、追加調査の結果等を記載する。

異常の規模が計測可能であれば、計測値を記入し、次のように記載する。

計測値の記載例：本数(N=○本)、延長(L=○m)、幅(W=○m)、深さ(D=○m)、高さ(H=○m)等

規模の記載単位は、1mを超える場合はm単位、1m未満の場合はcm単位、1cm未満の場合はmm単位とする。

治山施設現地点検チェックシート

海岸防災林造成（防潮堤、防潮護岸、消波工等）

なだれ防止林造成（なだれ発生予防工、減勢工、防護工、なだれ防護擁壁工等）

										点検年月日			
調査者所属										点検者氏名			
沿山管線番号										工事番号			
施工年度										事業名			
施工箇所													
緯度		度		分		秒	経度		度		分		秒
種別										諸元			
工種	点検項目	異常		異常の概略※	部位別健全度(1~4)	工種	点検項目	異常		異常の概略※	部位別健全度(1~4)		
		あり	なし					あり	なし				
防潮堤	本体	傾き・沈下				なだれ発生予防工（予 減勢工、防護工）	縦部材の異常						
		表面の破損					横部材の異常						
		ひび割れ（クラック）					基礎	基礎の変状・ひび割れ					
		目地の開き					施設 周辺	基礎の根入れ 土砂の異常堆積					
防潮護岸	ブロック	ブロックの沈下				なだれ 防護 擁壁 工	本体	変形					
		ブロックの破損						傾き					
		ブロックの浮き						劣化・剥離					
消波工	施設 周辺	背面の吸出し				施設 周辺	ひび割れ（クラック）						
		基礎部洗掘					沈下						
周辺の森林 状況等	施設前面の汀線後退					周辺の森林 状況等	土砂の異常堆積						
	森林の荒廃（下床植生 衰退、土壌流亡等）				森林の荒廃（下床植 生衰退、土壌流亡								
	倒木の発生				倒木の発生								
	病害虫等による立木の 枯損												
保全対象の状況													
現地点検者	○健全度Ⅰ	異常なし又は軽微な損傷・劣化				摘要	(異常の原因、修繕予定時期、修繕方法、概算工事費、判定の理由など)						
	○健全度Ⅱ	施設の機能は維持されているため経過観察とする											
施設全体の 健全度判定	○健全度Ⅲ	機能低下が生じる可能性があり、早期に対策が必要											
	○健全度Ⅳ	安定性や強度が低下しており、緊急に対策が必要											

※異常の概略は、異常箇所の位置、規模、追加調査の結果等を記載する。

異常の規模が計測可能であれば、計測値を記入し、次のように記載する。

計測値の記載例：本数（N=〇本）、延長（L=〇m）、幅（W=〇m）、深さ（D=〇m）、高さ（H=〇m）等

規模の記載単位は、1mを超える場合はm単位、1m未満の場合はcm単位、1cm未満の場合はmm単位とする。

治山施設現地検査チェックシート 記載例

溪間工（谷止工、護岸工等）

										点検年月日	2016/2/1								
調査者所属 (株)〇〇〇					点検者氏名 △△ □□														
沿山台帳番号 ×××-〇〇〇					工事番号 複第△△号														
施工年度 S50					事業名 復旧治山														
施工箇所 〇〇市大字△△××																			
緯度		36	度	33	分	55.5	秒	経度		139	度	20	分	15.8	秒				
種別 No.1 コンクリート ブロック積護岸工										諸元									
工種・部位		点検項目		異常 あり なし		異常の概略*		部位別健全度 (1~4)		工種・部位		点検項目		異常 あり なし		異常の概略*		部位別健全度 (1~4)	
谷止工 床固工 帯工	本体	天端摩耗 (コンクリート)		○		放水路中央部 L=5.5m、D=50cm (最大)		3		護岸工 水路工	本体	変形			○				
		堤体損傷			○							傾倒			○				
		石積み欠落 (石積)		○		欠落個数N=5個		2				損傷 (鋼製・木製のみ)			○				
		ひび割れ (コンクリート)			○							ひび割れ (フタ)			○				
		クラックによる漏水 (コンクリート)		○		堤体左岸部中央		2				目地の開き (コンクリート、ブロック積)		○		目地の開き W=3mm (最大)		2	
		傾倒			○							漏水			○				
		埋没			○							ブロックの欠落 (ブロック積)		○		欠落個数N=3個		2	
		変形 (鋼製・木製のみ)			○							接続部開き・漏水		○		W=3mm (最大)、漏水少量		2	
		部材の腐食・腐朽 (鋼製・木製のみ)			○							部材の腐食・腐朽 (鋼製・木製のみ)			○				
		部材の破断・ボルト欠損、 部材の脱落 (鋼製透過型のみ)			○							部材の破断・ボルト欠損、 部材の脱落 (鋼製透過型のみ)			○				
	底版コンクリートの摩耗								基礎部洗掘			○							
	流木等による閉塞 (鋼製透過型のみ)								周辺			○							
									背面土砂の沈下、流出			○							
袖部	損傷			○					その他付帯施設等		安全施設の異常		○		昇降金具の折れ曲がり				
	石積み欠落 (石積)			○					周辺の森林状況等		溪岸または溪床侵食の発生や拡大		○		右岸袖部直上 L (斜面長) =4.0m、				
	ひび割れ (コンクリート)			○					周辺の森林状況等		新規の山腹崩壊や地すべり、落石発生や既往溪床の新規土石流堆積物や巨礫、流木の堆積		○		施設上流の右岸溪床に新規の堆積土砂を確認 (W=5.0m、				
	変形 (鋼製・木製のみ)			○					周辺の森林状況等		土砂等の堆積状況 (堆砂敷への植生侵入状況)		○		草本類が疎らに繁茂する。木本類は見られない。				
	部材の腐食・腐朽 (鋼製・木製のみ)			○					周辺の森林状況等		満砂 未満砂		○						
	部材の破断・ボルト欠損、			○					周辺の森林状況等				○						
施設周辺	基礎部洗掘		○		放水路中央部直下 L=8m、D=50cm (最大)		2												
	袖部洗掘			○															
・保全対象の状況					・保全対象：人家10棟、県道 (L=200m)														
・施設群としての評価					・施設群としての評価：上下流に溪間工が存在するが、施設間の距離があるため関連性は低い。														
現地点検者		○健全度Ⅰ 異常なし又は軽微な損傷・劣化								概要		(異常の原因、修繕予定時期、修繕方法、概算工事費、判定の理由など)							
施設全体の健全度判定		○健全度Ⅱ 施設の機能は維持されているため経過観察とする										・天端が最大50cm摩耗しているが、上流端に達していないため、部位別健全度3とした。							
		●健全度Ⅲ 機能低下が生じる可能性があり、早期に対策が必要										・周辺の森林状況等からは、土砂生産が活発な状況が窺えるが、顕著な経年変化は見られないと判断し、施設全体の健全度							
		○健全度Ⅳ 安定性や強度が低下しており、緊急に対策が必要																	

※異常の概略は、異常箇所の位置、規模、追加調査の結果等を記載する。

異常の規模が計測可能であれば、計測値を記入し、次のように記載する。

計測値の記載例：本数 (N=○本)、延長 (L=○m)、幅 (W=○m)、深さ (D=○m)、高さ (H=○m) 等

規模の記載単位は、1mを超える場合はm単位、1m未満の場合はcm単位、1cm未満の場合はmm単位とする。